

# 斜里地方に渡来したクロヅル

森 信也<sup>1</sup>・吉田 暖<sup>2</sup>

1. 099-4114 北海道斜里郡斜里町朝日町 8-4 2. 099-4355 北海道斜里郡斜里町ウトロ東 186 番地, 環境省ウトロ自然保護官事務所 (現所属: 札幌市豊平区福住 1-2-13-20-206)

## Occurrence of *Grus grus* in Hokkaido, Shari

MORI Shinya<sup>1</sup> & YOSHIDA Atsushi<sup>2</sup>

1. 8-4 Asahimachi, Shari, Hokkaido 099-4114, Japan 2. Utoro Ranger Office, Ministry of the Environment, 186 Utoro-higashi, Shari, Hokkaido 099-4355, Japan (present address: 1-2-13-20-206 Fukuzumi, Toyohira-ku, Sapporo, Hokkaido 062-0041, Japan)

### はじめに

クロヅル *Grus grus* は, ヨーロッパ北東部からアジア東部までの地域で繁殖し, 北アフリカやアジア南部に渡り越冬する鳥類で, 日本には鹿児島県出水のツル渡来地に毎年数羽が飛来しナベヅル, マナヅルとともに越冬することが知られている (桐原ら 2000). ツル類は世界で 14 種が生息する大型の鳥類で, 我が国では 7 種が観察されている. 北海道でも同じ 7 種が記録されているがクロヅルを含む 6 種は迷鳥である (日本鳥学会 2000).

クロヅルは 1970 年と 1971 年に大樹, 釧路, 阿寒, 鶴居, 網走瀧沸湖で, 1985 年 12 月 14 日から 1986 年 3 月 27 日までの間鶴居で観察されている (藤巻 2000). 筆者らが 2005 年 9 月 1 日に観察した個体は観察状況及び撮影した写真記録からクロヅルの亜成鳥であることが確認された. 斜里地方では初の記録でありここに報告する.

報告に当たって写真をもとに種の同定をいただいた日本鳥学会日本産鳥類記録委員の柳澤紀夫氏に感謝の意を表す.

### 観察場所の環境および観察結果

クロヅルが観察されたのは知床半島分水嶺西側の斜里町管内ルシャ地区で, 斜里市街地から北東に 75 km 離れている (図 1). 観察場所はルシャ

地区のポンベツ川河口より西に 600 m 離れた林道沿いのハンゴンソウが密生した海岸草原である. この環境は林道から海岸方向へ 50 m 程の幅でハンゴンソウ群落が占めており, その端から波打際まで 20-50 m の中でイネ科植物 (ナガハグサ, オオアワガエリなど) が芝状に分布していた. ハンゴンソウの黄色の花は過ぎ気味の時期であった. このような海岸草原が林道が海岸部に下りる地点から東へポンベツ川まで続いていた.

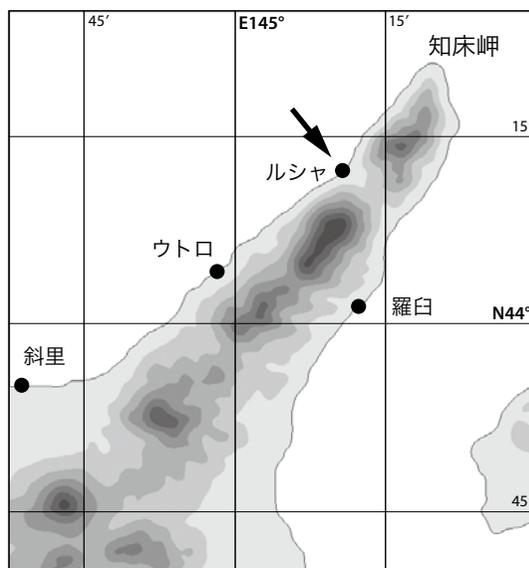


図 1. 観察場所.

図2. クロヅル *Grus grus* (斜里町ルシヤ地区, Sep. 1, 2005. 撮影: 森信也).



2005年9月1日, 林道上の車両より鳥獣のラインセンサス中に海岸草原から突然飛び立つ大型の鳥を目視し, 飛翔中を写真撮影記録した(図2). 瞬間的に, 体形はタンチョウに似ているが全体的色彩から別種であることが確認できた. 頭頂の赤色が小さく, 後頸, 目先, 喉の黒色が頸側部にかけての白色に対して際立って目立ち, 飛翔時にのばした脚部は黒色であった. 全体的には灰色に近い個体であった. 海岸のハンゴンソウ群落の草丈は120–150 cm位で, 時々頭部を見え隠れさせながら移動しているのが確認された. その後, その速度に合わせて5分ほど観察を続けたが, 突然飛翔し100 mほど離れた草地に舞い降り捕食

を始めたが, 半島突端部方向の海上に飛び去り見失った. 当日の天候は終日晴れであった.

#### 引用文献

- 藤巻裕蔵. 2000. 北海道鳥類目録(改訂2版). 83 pp. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸. 2000. 日本の鳥550 水辺の鳥. 158 pp. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥類目録編集委員会(編). 2000. 日本鳥類目録. 345 pp. 日本鳥学会, 帯広.